

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
SDGs の達成を目指し、Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL 型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が関心のある社会的課題の内容について、自分の言葉で説明することができる 社会的課題に取り組んでいる団体、組織を訪れてフィールドスタディを実施することができる <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が関心のある社会的課題について他者に自らの意見を伝える事ができる 自分が関心のある社会的課題について調べ、その解決方法を考案することができる <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数ある社会的課題の中から、自分自身がより理解を深め、課題解決をしたいと思うことのできるものを見つけることができる 当該課題と向き合う中で、その課題に関わり学ぶ事が自分自身の人生においてどのような意味を持つのかを自覚する事ができる 社会的課題に向き合う中で、人間は社会的・文化的・歴史的な構造関係の中に存在している事に気づき、社会に参画・貢献する姿勢を持つことができる 	
下位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自分が関心のある社会課題の内容について、自分の言葉で説明することができる 社会課題に取り組んでいる団体や組織を訪れてフィールドワークを実施することができる データや資料を適切に使って、効果的なプレゼンテーションを行うことができる <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自分が関心のある社会課題について、他者に自らの意見を伝えることができる 自分が関心のある社会課題について調べ、その解決方法を提示することができる <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ol style="list-style-type: none"> 数ある社会的課題の中から、自分自身がより理解を深め、課題解決をしたいと思うことのできるものを見つけることができる 当該課題と向き合う中で、その課題に関わり学ぶことが自分自身の人生においてどのような意味を持つのかを自覚することができる 社会的課題に向き合う中で、人間は社会的・文化的・歴史的な構造関係の中に存在していることに気づき、社会に参画・貢献する姿勢をもつことができる 	

授業日	2/22(木)	3 学期授業回数	7 回目 / 全 7 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②③ 【思考力・判断力・表現力】①②③【学びに向かう力・人間性】①② 本時の具体的な目標 ・「MOTHER HOUSE」の岡本さんの話を伺い、社会課題解決に向けた企業の現状について知る。 ・社会課題を解決するとはどのようなことなのか、最終プレゼンテーションを通して各自が考えたことについて考えをさらに深める。		
時間	10 分	前回の最終プレゼンテーションに関する振り返り、今後のスケジュールの確認を行う	
授業内容	40 分	「MOTHER HOUSE」の岡本さんの話を伺い、その経営の理念や事業内容を知る	
	15 分	「MOTHER HOUSE」の実際の店舗を訪問し、その事業内容について考えを深める	
評価方法	最終プレゼンテーションとあわせ、classi のアンケート機能を利用した振り返りを行い評価する		
宿題指示			

■最終プレゼンテーション評価ルーブリック

観点①	FS先を訪問するにあたって、目的意識がはっきりとしているかどうか。	
A (6 点)	どのような問題意識（きっかけ）でFS先を選定したのか、訪問の目的（何を知りたかったか）が明確である。	
B (4 点)	FS先についての情報は明確に調べてあるが、問題意識との関係や訪問の目的との関係が見えにくい。	
C (2 点)	FS先についての情報が調べてあるだけで、自分たちが何を解決しようとして訪問したのかに触れていない。	

観点②	施設設立の目的や今抱えている問題点について理解することができているかどうか。	
A (6 点)	現場の人たちの持つ「課題」について、現場の人たちが具体的に「何を語ったか」が明確である。	
B (4 点)	現場の人たちが持つ「課題」について説明できているが、現場の人たちの「声」が見えにくい。	
C (2 点)	FS先の人たちの大変さについて訪問者として感想を述べているだけである。	

観点③	次のステップに向けたアクションプランに関して適切なビジョンを持っているか。	
A (6 点)	当該テーマについて何ができるのかが具体的であり、それが実現可能であることを証明できている。	
B (4 点)	当該テーマについて何ができるのかが具体的に示されているが、それが実現できることが証明できていない。	
C (2 点)	何ができるのかが抽象的であり、それが該当テーマとどう関連しているのかがはっきりしていない。	

観点④	視覚資料に関してプレゼンに適した工夫がなされているか。	
A (6 点)	スライドの構成が導入、展開、結論と全体を通して論理的にまとめられており、文字のフォントやグラフ・図が効果的に用いられている。	
B (4 点)	スライドの構成において結論に向けての論理的な展開が見えづらく、グラフ・図の効果も十分に活かされているとは言えない。	
C (2 点)	スライドに情報が羅列されているだけで、結論とそれ以外の部分のスライドとの関連性が見えない。	

観点⑤	発表の仕方に関してプレゼンに適した工夫がなされているか。	
A (6 点)	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が感じられる。	
B (4 点)	発表者の声量や視線がこの課題に対する熱意を十分に感じさせるものとは言えない。	
C (2 点)	情報は伝達できているが発表者の声量や視線に自信が感じられない。	